



—写真—

1石灯籠が崩れ落ち鳥居が崩壊した竹迫日吉神社
2**4****6**崩れ落ちた屋根瓦や外壁 **3**キャビネットが倒れた須屋市民センター事務所 **5****8**高速沿いの道路やマンホール周辺に入った亀裂 **7**鳥居が割れた大池神社 **10****11****12**備品や書類が散乱した合志庁舎内

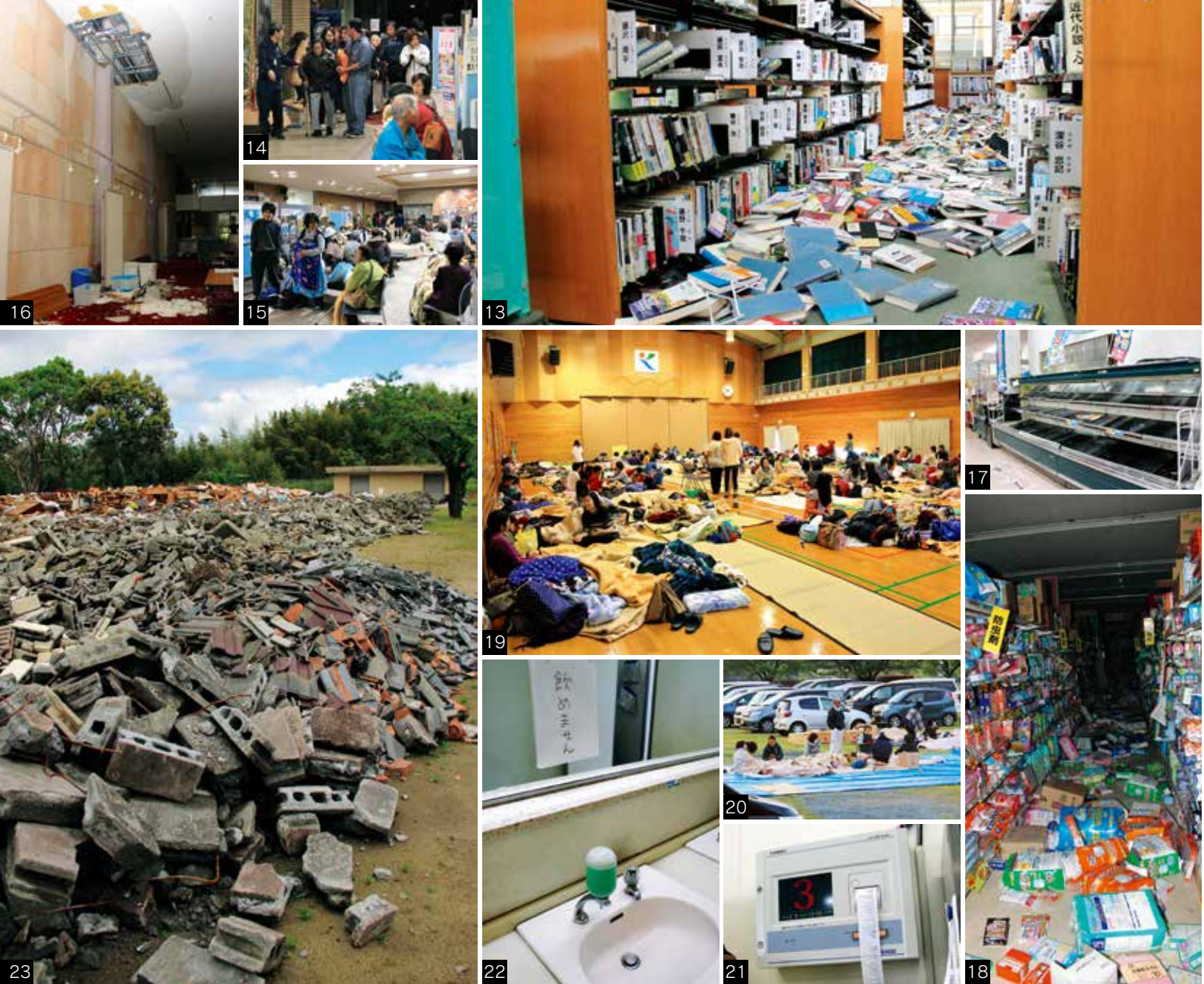
平成28年(2016年)熊本地震 合志市では震度6強を観測

4月14日午後9時26分頃、熊本県で最大震度7、マグニチュード(M)6.5の地震が発生。本市でも震度5強を観測した。震源は熊本地方の地下約11キロ。日本で震度7が観測されたのは東日本大震災以来4回目、九州地方では観測史上初。気象庁は「平成28年(2016年)熊本地震」と命名した。

続いて16日の午前1時25分頃。最初の地震による動揺がおさまらぬまま、本震とみられる震度7、M7.3の地震が再び熊本を襲った。本市では震度6強を観測。その後も幾度となく余震が続き、大きな被害と恐怖をもたらした。

14日午後10時30分頃、市災害対策本部は自主避難所9カ所を開設した。しかし、16日の本震やその後の余震の影響で避難者数はさらに増加。避難所はピーク時で21カ所に増え、6629人が避難した。

着の身着のままの状態が集まった避難者。合志庁舎ではロビーや廊下、屋外にも人があふれ、多くの住民が不安な夜を過ごした。



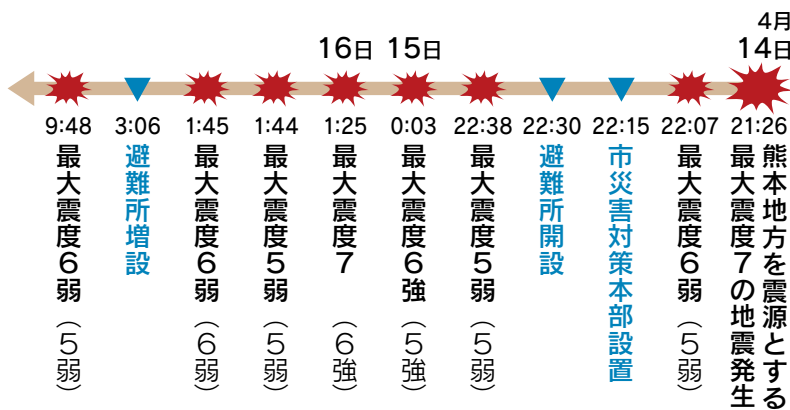
—写真—

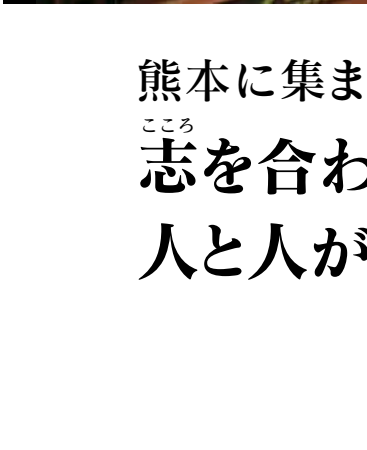
13本が床一面に散乱した西合志図書館 1415合志庁舎に避難した住民 16配水管の損傷で水が漏れ、天井が一部崩落したヴィーブル 17食料品が品薄になったスーパー 18多くの商品が棚から落ちたホームセンター 19避難所では多くの人が肩を寄せ合った 20危険な屋内を離れ屋外で朝を迎える避難者 21度重なる余震を計測する合志庁舎の震度計 22水道水は濁り飲めなくなった 23がれきであふれかえった仮置き場

16日の朝、見慣れたはずの家・まちを見渡すと、そこにはいつもと違う光景が広がっていた。水道から流れる薄茶色に濁った水、破損して散乱した食器や家具、割れた多数の屋根瓦やガラス、崩れ落ちた壁、亀裂が入った道路、崩壊した鳥居。多くの店舗は休業し、学校は休校。ガソリンスタンドには長い行列がで

た。き、緊急に設けた家屋廃材の仮置き場には、がれきなどが山のように積み上げられた。また、二次災害防止などのため、16日から本市を含む県内約10万5千戸で都市ガスの供給が停止した。水道は、市内のほとんどの地域で断続的に濁り水が発生し、飲用水として使用できない状況となった。

平成28年熊本地震の主な経緯





熊本に集まった数々の支援 こころ 志を合わせて 人と人が手を取り合うこと

17日の朝、各避難所で、最初の支援物資として寄付されたパンと水を配布。続いて自衛隊や地元事業者による給水活動が始まると、たちまち行列ができた。また、北海道DMAT（災害時派遣医療チーム）なども順次駆け付け、避難者の健康状態の確認や医療支援を行なった。給水支援を行なう自衛官から水を受け取った避難者は、「本当にありがたい」「水は本当に大切」と少しほっとした表情を見せた。

物資や医療支援、各種ボランティアを始め、県内および全国各地から続々と寄せられ始めた支援。避難所内でも住民同士が助け合い、難をしのいでいる。しかしその一方で収まらない余震。28日午前7時現在、震度1以上の地震は1019回観測されており、余震がおさまる気配はみられない。避難生活が長引く恐れもあるなか、この震災を乗り越えるためには一人一人が声を掛け合い、手を取って協力し合うことが、復興に向けて踏み出す最初の一步になるのではないだろうか。

—写真—

1**2****6****7****10**各地から届けられた支援物資 **3****8**地元を巡回する各地区の消防団員。物資運搬などあらゆる支援を行なった **4**避難者の健康状態の確認にまわる北海道DMAT **5**兵庫県の第3後方支援連隊衛生隊による医療支援 **6**宮崎県の第43普通科連隊による物資運搬 **9**地元事業者も給水支援など多岐にわたり尽力した

※DMAT…Disaster Medical Assistance Team



—写真—

11 12 家屋廃材の仮置き場では、地元高校生らが搬入や分類を手伝った **13** **15** **20** 鹿児島県から第12普通科連隊による給水支援。多くの住民が飲み水を求めて列を作った **14** カントリーパークにキャンプを張って本市を大きく支援した兵庫県の第36普通科連隊のテント **16** **17** **18** 避難所では物資配布や健康相談、交流など避難者同士が自分にできることを行ない支え合う場面も **19** 被災しながらも、おにぎりなどを作り避難所へ届けた住民も複数いた **21** 「子どもたちに笑顔を」と博多区から3人の青年が届けたたこ焼きの炊き出し。各避難所ではさまざまな個人・団体が炊き出し支援を行なった

●ピーク時の避難者数（4月17日午前0時）

避難所	人数	避難所	人数
ふれあい館	549人	妙泉寺体育館	203人
ヴィーブル	700人	泉ヶ丘体育館	251人
泉ヶ丘市民センター	576人	合志南小	370人
みどり館	280人	合志南小グラウンド	120人
合生文化会館	52人	南ヶ丘小体育館	770人
野々島公民館	97人	西合志第一小	43人
御代志市民センター	82人	西合志南小	300人
黒石市民センター	156人	西合志南中	450人
須屋市民センター	748人	西合志中	280人
合志庁舎	150人	須屋浄化センター	52人
西合志庁舎	400人	合計	6,629人

●市総合防災マップ（保存版）

市内の避難所一覧や位置図、その他公共施設や医療機関、災害時に気を付けること、非常時持ち出し品の紹介など、災害時に役立つ情報を掲載しています。



ことし3月、区長などを通じて各世帯に配布していますのでご利用ください。

総務課（合志庁舎）、西合志庁舎総合窓口課、須屋支所、泉ヶ丘支所でも配布しています。